

岐阜県博物館

友の会報

岐阜県博物館友の会

〒501-3941 関市小屋名1989
岐阜県博物館内
TEL (0575) 28-3111
(内線331)
FAX (0575) 28-3110
印刷 株式会社 岐阜文芸社

ごあいさつ

岐阜県博物館 館長 梅本 雅史



百年公園の木々がさらに色濃く、木漏れ日に瑞々しさを感ずる季節となりました。

友の会の皆様には、日頃から当館の運営に格別のお力添えを賜り、厚くお礼申し上げます。

とりわけ昨年度開催した特別展「ボケモン化石博物館」においては、お子様を中心に大変好評をいただき、期間中65,000人余のお客様にこそ来館いただきました。これに伴い友の会で運営いただいているミュージアムショップも多くのお客様に利用いただきましたが、その収益の還元として、多くの書籍や展示資料を寄贈いただき、当館の収蔵品の充実と魅力向上にご協力いただきましたこと改めて感謝申し上げます。

この4月に館長を拝命し、歴史と伝統、そして長年にわたる資料や研究の蓄積を有するこの博物館に、いかにして多くのお客様に利用いただくかを模索する日々ですが、前職である岐阜関ヶ原古戦場記念館での経験を踏まえ、多くのお客様に来ていただけるような展示や、里山の自然の中にある博物館ならではの体験メニューなども考えていきたいと思っています。

県においても、今年2月に新たに江崎知事が就任され、「安心とワクワクにあふれ、人やモノが集まる岐阜県、つ

くり」に向けて新たな施策に取り組んでいるところですが、博物館としてもお越しになるお客様がワクワクしながら、郷土の自然、歴史、文化を学んでいただける魅力的な施設となるよう努めて参ります。

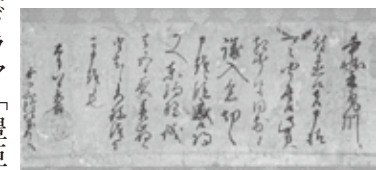
そうした中、本年度も魅力的な特別展、企画展を開催する予定となっております。現在開催中の企画展「雑草とよばないで」は、同時期に開催される第42回全国都市緑化ぎふフェアの関連事業として、田や畑、道端や空き地で見かける雑草にスポットライトをあて、植物の巧みな生き方や人間生活との関わりなど、身近な自然に関心を持っていただけるような展示を行っております。また、夏の特別企画展「鳥の卵のみつーBird Eggs」では、貴重な鳥卵コレクションを紹介することで、さまざまな鳥の卵の形や模様を楽しむとともに、鳥類の保全活動に関心を持っていただける展示を、岐阜大学と連携して開催します。

秋には特別展「尾張徳川家ゆかりの美濃刀」を予定しており、徳川美術館刀剣コレクションか



▲雑草とよばないで展示風景

らこれまで公開機会が稀であった美濃刀を一堂に紹介し、知られざる徳川家ゆかりの美濃刀コレクションを紹介いたします。



▲羽柴秀吉朱印状 岐阜県博物館蔵

令和8年2月に開催予定の博物館・歴史資料館連携企画展「豊臣秀吉と美濃(仮)」では、令和8年放送のNHK大河ドラマ「豊臣兄弟！」で関心の高まりが期待できる豊臣秀吉と美濃国の関係がうかがう史料について、県博物館が近年収集している織豊期文書や県歴史資料館が所蔵する古文書を中心に、展示する予定です。いずれもタイムリーかつ魅力溢れる内容であると自負しておりますので、足をお運びいただけたら幸いです。

さて、先ごろ、百年公園が開園50周年を迎え、記念のセレモニーが行われました。百年公園の開園から1年遅れで開館した博物館は、来年開館50周年の大きな節目を迎えます。これまで蓄積された膨大な資料や調査研究など、半世紀にわたる博物館の長い歴史を踏まえつつ、博物館の今後のあるべき姿も見据えた企画展、特別展を、50周年を記念して開催したいと考えております。

友の会の皆様には、博物館を一番よく知る方々として様々なご意見等を頂戴しながら、よりよい博物館となるよう努めてまいりますので、引き続きあたたかいご支援を賜りますようお願いいたします。

鳥の卵のひみつ—Bird Eggs—

岐阜県博物館 学芸部 説田 健一

鳥の卵は美しい。完璧な形、表面の多様な色や模様は、古くから、多くの人々を魅了しました。18世紀のヨーロッパでは、卵のコレクションが豪華な応接間を彩る装飾品として欠かせないものでした。日本では、卵の収集は流行りませんでした。欧米では、19世紀から20世紀のはじめ、博物学的な趣味として、卵殻の標本収集が大流行しました。こうして集められたコレクションは、現在では、博物館の所蔵品となっています。

日本には、欧米の博物館に匹敵する卵コレクションはありませんが、「日本産鳥類の原色鳥卵図譜」を共同執筆した小林桂助と石澤健夫のものは規模が大きく、それぞれ兵庫県立人と自然の博物館と山形県立博物館にあります。今夏の展示では、小林が収集した卵の標本をいくつか紹介します。なかでも、尖閣諸島で採集されたアホウドリ(鳥島で繁殖するアホウドリは遺伝的に異なることが分かっています。まもなく、それぞれ別種となります)の卵は見逃せません。

当館には、岐阜市内で醸造業を営んでいた柳原要二が収集した卵コレクションがあります。自宅周辺で採集したものには、現在、観察することが難しいヨシゴイの卵があります。また、北海道の鳥獣採集人、折居彪二郎から購入した苫小牧市周辺の卵や東京の標本

商、長興鼎から購入した富士山麓や長野県の卵があります。柳原はこれらの卵の長径や短径を計測するなどし、動物学雑誌に二編の論文を投稿しました。

現在、鳥の卵の採集は、繁殖への影響が大きいため、ほとんどの国で禁じられています。日本も例外ではありません。したがって、国内の博物館が所蔵する卵の標本の多くは、明治から昭和の中ごろのものです。ところが、岐阜大学には全国の動物園や水族館から合法的に収集した膨大な卵コレクションが存在します。動物園や水族館では、動物の生体展示をするとともに、絶滅の危機にある動物の繁殖研究も行われています。岐阜大学は繁殖研究をサポートしながら、受精しなかった卵などを積極的に収集しています。岐阜大学のコレクションには、野生鳥類の卵はあまり含まれていませんが、トキ、ヤンバルクイナ、ライチョウ、アカガシラカラスバトなど、絶滅の危機にある鳥類のものがたくさんあります。また、動物園等では常連のペンギン、ツル、フクロウ、インコ類の卵もさまざまな種類のものも見るができます。

今年の夏は、ぜひ、岐阜県博物館・岐阜大学連携特別企画展「鳥の卵のひみつ—Bird Eggs—」(令和7年7月12日～9月21日)にお越しください。

鳥の卵は本当に美しいですよ。



▲岐阜大学の卵コレクション(中央はヒクイドリ)



▲ニワトリの卵も美しい

莊川化石フォーラム2025

～1億年前の日本の恐竜たち～

岐阜県博物館 学芸部 高津 翔平

岐阜県や福井県、富山県、石川県に広く分布する手取層群は、恐竜をはじめとする前期白亜紀の脊椎動物化石が多産することで有名です。岐阜県でも1987年に高山市莊川町から見つかった1つの歯化石をきっかけに、県内の手取層群への関心が高まりました。近年、県内産の恐竜化石としては初となる新属新種の学名が与えられたほか、新たな化石産地の発見や県内の手取層群の堆積年代の推定が進み、白亜紀の岐阜における動植物相の復元が進みつつあります。

そこで本フォーラムでは、国内各所で活躍する恐竜研究者をお招きし、手取層群をはじめ約1億年前の日本に生息していた恐竜たちの最新研究を紹介いただきます。また化石発掘体験やワークショップも開催し、家族で学び・楽しめるフォーラムとなることを期待します。

日時：令和7年8月2日（土）

9：00～12：30 午前の部「講演会」

13：30～15：45 午後の部「化石発掘体験」

10：00～15：00 ワークショップ

（12：00～13：00 昼休憩）

※講演会および化石発掘体験はそれぞれ事前予約制

※参加申し込みは令和7年7月2日（水）より、岐阜県博物館のHPにて受付開始

※雨天の場合、化石発掘体験は中止



▲莊川化石フォーラム2022「講演会」の様子

移動展・飛騨高山まちの博物館春の特別展

伝統、そして傑作

—岐阜県博物館コレクションを中心に—

岐阜県博物館 学芸部 長野 宜延

現在、飛騨高山まちの博物館（高山市）において、移動展「伝統、そして傑作 —岐阜県博物館コレクションを中心に—」を開催中です。

岐阜県には、一位一刀彫や美濃焼、鶯飼をはじめとした多くの文化遺産があります。これらは、“伝統”として世代を超え大切に受け継がれるだけでなく、時代の変遷とともに多彩な“傑作”もうみだし、岐阜県が世界に誇る文化・伝統として知られています。

この展示では、岐阜県の誇るべき“伝統”のなかで、美術作品、技術、民俗芸能の分野から、岐阜県博物館が所蔵する資料を中心に、受け継がれてきた“伝統”とそこから生まれた“傑作”を展示しています。

例えば、「葉津文楽人形」や、「美濃の地歌舞伎衣装」（ともに県指定重要有形民俗文化財）があります。文楽、地歌舞伎といった古くから岐阜県内において行われてきた芝居に使用されていた“傑作”です。

その他にも、岐阜県の伝統的工芸品である「岐阜和傘」、「岐阜提灯」、「美濃焼」、「美濃和紙」、「一位一刀彫」、「飛騨春慶」に関連する資料も数多く展示しています。

国内外問わず多くの観光客が訪れる高山の地にて、岐阜の“伝統”と“傑作”を知っていただき、その魅力を再発見してもらいたいという願いを込めております。ぜひ、高山にお越しの際はお立ち寄りください。

期間：令和7年4月12日（土）～6月15日（日）

会場：飛騨高山まちの博物館 2階特別展示室



▲展示風景

マイミュージアムギャラリー 第2回展示

「季節の植物画、魚画、油彩画展」

令和7年5月31日(土)～6月29日(日)

岐阜県博物館 学芸部 佐藤 裕泰

令和7年度の第2回目は、高井昌子さんによる「季節の植物画、魚画、油彩画展」を開催します。

令和7年4月23日より開催された全国都市緑化ぎふフェアにちなみ、たくさんの植物画をお楽しみいただける展示を企画しました。

高井さんは、写真を参考にすることなく、自ら自然の中で採取した植物を描くことにこだわり、生命力あふれる姿を一気に描き上げております。水彩で表現された色とりどりの野山の草花や木の実は、写真や標本とは違った独自の魅力を放ち、作品から自然の息吹が感じられます。

さらに、植物画とともに魚画や人物画も展示いたします。魚画は顔彩を用いて描かれ、瑞々しい生命感が伝わる作品となっています。人物画は油彩による写実的な表現が特徴で、肌や布の質感が丁寧に追求されています。モデルは高井さんの娘さんであり、その成長とともに刻まれた家族の歴史を感じる作品です。

ぜひマイミュージアムギャラリーへ足を運び、高井さんが描かれた生命の輝きをご堪能ください。



「房藤空木」 1995年



「天界の華」 2021年

新収蔵品紹介

「濃州関ヶ原図」

岐阜県博物館 学芸部 中川 創喜



▲濃州関ヶ原図

令和6年度に岐阜県博物館友の会様よりご寄贈いただいた資料の中から、関ヶ原の戦いに関する絵図を紹介いたします。

この絵図は、慶長5年(1600)関ヶ原の戦いについて、合戦の前日9月14日と本戦当日9月15日の東西両軍諸將の布陣や合戦の動向を描いたものです。石田三成ら西軍が拠点とした大垣城、東軍を率いる徳川家康の岡山本陣、東西両軍の決戦場となった関ヶ原を中心とした西濃地域が描かれ、東軍は赤丸印、西軍は三角印で布陣地が記されています。城の堀や陣の竹矢来(竹を組んで作る囲い)が強調して描かれているほか、「南宮」(南宮大社)・「虚空蔵」(明星輪寺)・「熊坂物見松」が絵画的に表現されています。端書には「慶長五庚子年九月十四日十五日合戦、濃州関ヶ原図」と記載されています。

この絵図の他にも、江戸時代の地誌、明治期の古地図、錦絵など、岐阜県にゆかりのある貴重な資料をご寄贈いただきました。会員の皆様方のご厚意に対して御礼申し上げます。

博物館を楽しむための強い味方たち！

岐阜県博物館 学芸部 星野 友多

「順路に沿ってすべての展示物に目を通す」、「目に留まった展示物をじっくり見る」、「解説やキャプションを熟読する」。博物館を楽しむ方法は人それぞれです。

そんな多様な楽しみ方に対して、それぞれにお勧めしたいものが、以下のガイドたちです。



▲みどころガイドや探検シートの一例

○みどころガイド（常設展示室入口）

人文展示室や自然展示室の見所を、順路に沿って示してあります。ワンポイント解説もあるので、展示室の全体像を一目で把握することができます。

○探検シート（3Fインフォメーション横）

主に小学生向けのワークシートですが、大人でも知らない新たな発見が盛りだくさんです。展示物をじっくり見て問題を解いてみてください。展覧会特別版の探検シートもあります（展覧会会場入口）。

○ポケット学芸員（各展示室）

展示物の横に3桁の番号があります。専用のアプリをダウンロードして番号を入力すると、展示物の詳細な解説を聞くことができます。

友の会の皆様におかれましては、こうしたガイドを目にされたこともあると思います。ご自分の楽しみ方に合ったガイドをぜひ手に取っていただき、博物館を楽しんでいただけると幸いです。

岐阜県博物館からのお知らせ

○令和7年度がスタートしました



今年度新転入の8名です。皆さまに岐阜県の自然・歴史・文化をワクワクして楽しみ、誇りを感じていただけるよう発信していきます。どうぞよろしくお願いいたします。

友の会事務局からのお知らせ

★令和7年度友の会の主な活動

- 会 議 ・10月16日(木) 秋季理事会
・3月12日(木) 会長・副会長会議
- 委員会 ・会報委員会 4月11日(木)
・探訪の旅委員会
- 友の会報 3回発行
・143号(6月)、144号(10月)、145号(2月)
- 博物館との共催事業
・けんぱく教室、わくわく体験
・「七草がゆを食べよう」は今年度も開催しません。
- 探訪の旅
宿泊探訪の旅：青森方面で計画中
9月に催行予定
7月頃にご案内予定です。

★友の会142号(前号)の訂正とおわび

- 4ページ18行目
「双塔型天守」とありますが、正しくは「層塔型天守」です。たいへん申し訳ありませんでした。

★友の会報への会員のみなさまの投稿をお待ちしています。